

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】

子ども・宇宙・未来の会 10周年記念事業 KU-MA おとなの「宇宙の学校®」開校します

KU-MA設立10周年記念事業として、東京都新宿区立四谷小学校を会場にKU-MAおとなの「宇宙の学校」を開校いたします。

当会が主催し、内容は、3名の講師をお招きし、講演とトークセッション、宇宙教育教材の紹介など楽しみながらプログラムを組み合わせた3回シリーズです。

第一回目は、高柳雄一理事が『宇宙が拓く科学の未来』と題し、人間の好奇心を絶えず刺激して科学の視点を広げてきた宇宙は、人類の科学の未来にどうかかわるのか？科学の未来について、お話しさせていただきます。

各回の司会は、菊地涼子理事、トークセッションでは、平林久理事や並木道義理事が講師との対談で、講師のみなさんの魅力をさらに引き出して下さることでしよう。

後半では「宇宙の学校」などで実施している宇宙教育教材の紹介も予定しています。

「高柳さんは面白いことNHKにある宇宙と科学を伝える努力を続けてこられました。その後も一貫して社会と科学をつなぐ大仕事を果たしていらっしゃいます。魅力ある高柳さん、世界をお聴きします。のび、今から楽しみます。」

平林先生から事務局に届いた直筆のメッセージ

ホームページからお申込みできます。

当日のご入会も会員割引対象となります。ぜひ、知人の方などにご紹介ください。会員の方々と会えるせっかくの機会です。お誘い合わせの上、ご参加下さい！

会員のみなさまには日ごろの感謝を込めて、10周年特別価格にてご案内いたします。第3回の終了後には、会員間の交流を目的とした**会員限定の懇親会**もひそかに企画中です。



第1回 2018年12月22日(土)
「宇宙が拓く科学の未来」
講師：高柳 雄一氏
NPO法人 子ども・宇宙・未来の会 理事
多摩六都科学館 館長

第2回 2019年1月14日(月祝)
「重力波と宇宙」
講師：藤本 真克氏
理学博士 国立天文台 名誉教授

第3回 2019年2月11日(月祝)
「太陽系大航海時代に向けて」
講師：川口 淳一郎氏
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 シニアフェロー
宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系 教授

日時：①2018/12/22(土) ②2019/1/14(月祝) ③2/11(月祝) 各回13:30~16:00
会場：新宿区立四谷小学校 体育館(西ヶ谷駅・四谷三丁目駅徒歩5分)
対象：一般(18歳以上高校生不可) どなたでもご参加いただけます
参加費：一般 6,000円(全3回分教材費込) *参加費は初回参加時に受付でお支払ください
KU-MA 会員 3,000円 対象：KU-MA正会員もしくは5口以上の賛助会員 当日のご入会も対象となります
*2回目からの参加も可ただし参加費一律料金 *KU-MAにつきましては、裏面をご覧ください
【お問合せ】 *お申込み方法は裏面をご覧ください
NPO法人 子ども・宇宙・未来の会 TEL: 042-750-2690 E-mail: KU-MAs@ku-ma.or.jp



多摩六都科学館 館長室で打ち合わせ中

当日に向け、多摩六都科学館の館長室に打ち合わせにきました！「宇宙が拓く科学の未来」と題してお話。今から楽しみです。話題のゴジラ座やエトリノのお話も？！3人の先生方のプロフィールもホームページで紹介しています。みなさん、ぜひご参加ください。会場でお待ちしています。

再使用ロケットをめざして

ちょっと可愛い(?) 白い三角すい-RVT は再使用ロケットの実験機。将来、使い捨てではなく再使用ができるロケットを作ること考えて作られたものです。軟着陸のための航法誘導制御機器や着陸脚など、安全に繰り返し飛行運用するための工夫が施されています。



水星への7年の旅

他にも、先日打ち上げられた国際水星探査計画の水星磁気探査機「みお」、「ひので」「あかつき」など、さまざまな探査機の模型とその解説も並んでいます。(写真は、水星磁気探査機「みお」の模型)



並木会長も解説員の一人です



来春、KU-MA 会員限定の見学会を企画中です。乞うご期待！

見学の案内、解説の時間など詳しい情報は、JAXA 相模原キャンパスのホームページ <http://www.isas.jaxa.jp/> から、広報・イベント> 見学案内> 解説ツアー、と検索してみてください。そして是非ご来場ください。

おとなりの宇宙探査実験棟では・・・



また、運が良ければ、交流棟の隣にある宇宙探査実験棟で、実験のスケジュールの合間に425 トンの砂を敷き詰めた実験場のローバーを見ることが出来るかもしれません。

月面のさらさらの砂-レゴリスの上を行く探査車を想像することができそうです。

KU-MA とわたし 「宇宙の学校」を長く続けるために・・・ 相模原「宇宙の学校」実行委員会 城山グループ 会員 高橋 実

相模原市城山地区で「宇宙の学校」を開校して、4 年目になります。毎年15・20 組の親子が受講しています。工作体験のスクーリング、家庭学習発表、それに宇宙に関連した小話が定例のプログラムです。工作体験を行っているときの子どもたちの眼の輝き、家庭学習の斬新な試み、恥ずかしさが愛おしくなる発表等々、毎回子どもたちの対応を愉しんでいます。

私が「宇宙の学校」を地域で開校したいと思ったのは、「宇宙の学校」のプログラムの工作体験や家庭学習、さらにはその発表によって、未来の子どもたちが考える力と相互に分かり合えるコミュニケーション力を育むことができると思ったからです。そして、宇宙から物事を考えることができる、言い換えれば物事を俯瞰して視ることができるといふことも併せて感じました。

ICT が急速に発達し、知識を求めれば容易に手にすることができるようになりました。また、人工知能(AI)の活用が進み、これからの社会は、これまでとは全く違って、自らが考えて創造することや、いろいろな人たちと相互に共感しながら課題の解決に取り組むことが非常に重要になることが予想されます。それは、これまで経験したことがない社会で、子どもたちはそんな社会を生きていくこととなります。そんな子どもたちにとって、「宇宙の学校」は、非常に大事なことを教えてくれるプログラムであると言えます。

しかし、なかなか教育現場に活用されることも少ないのが実情(一部、地域によっては学校教育にも活用されているようですが)です。私は、地域において長く、「宇宙の学校」を続けていきたいと考えています。そのためには、私を含めて城山地域の世話人の方々が、自らスクーリング講師になって、「宇宙の学校」を運営することが最善です。ただ、大人に説明をすることができても、子どもたちに話しかけ、対話をしながらスクーリングを進めていくことは経験がなく、大変難しい。ぜひ、KU-MA において、スクーリング講師養成プログラムを策定していただきたいと思っています。スクーリング講師が地域ごとに配置されることは、全国展開している「宇宙の学校」の運営基盤が強固なものになると考えます。

私事ですが、40 年にわたって宇宙関係の仕事をやってきて、宇宙開発黎明期の技術関係者のギラギラした活力やものづくりに対する真摯さが日本の宇宙開発の発展に大きく貢献したと思っています。そうした想いを未来の子どもたちに伝えたい。「宇宙の学校」を長く続けることは、そのための大切な活動なのです。



交流棟に一歩足を踏み入ると、高い天井、広々とした空間に大きなロケットのフェアリングがそびえ立っているのが目に飛び込んできます。奥に見える絵は観測用の気球20分の1の模式図。天井の右の方に吊るされているのは小惑星探査機「はやぶさ2」と惑星分光観測衛星「ひさき」の実物大模型です。

2 枚の写真 違いはどこだろう？

こちらの2枚の写真はどちらも「はやぶさ2」の模型を下から撮影したものです。左はフラッシュなし、右はフラッシュありです。何か違いがわかるでしょうか？



右の写真には、前面に白く光り輝く□が3つあります…「ターゲットマーカー」です。10月25日、「はやぶさ2」から小惑星「リュウグウ」に投下されました。ターゲットマーカーに貼り付けられた反射シートが「はやぶさ2」から発せられたフラッシュによって明るく輝き、「はやぶさ2」が着陸するときの目印となります。ターゲットマーカーには国内外の約18万人の名前を刻んだアルミシートが入っていて、話題になりましたね。

帰還時の安定飛行の工夫

彗星のように光の尾を引きながら帰還した「はやぶさ」も記憶に新しいところです。こちらは模型だけでなく、奥の小部屋に本物も展示されていますが、撮影は禁止。研究のためにカプセルなど部分的に展示から持ち出されることがあり、全部がそろわない形での写真が出回って誤解されることを避けるためだそうです。しかし全部か一部か、とにかく本物がここにいます。遠い宇宙から帰ってきた「はやぶさ」を見るのは感動的です。小部屋の外には模型の展示も。

帰還時に展開したパラシュートは十文字の形を採用することで安定した飛行ができたそうです。他にも研究者の方々の工夫が凝らされた「はやぶさ」、解説を聞くと一層よくわかります。



■活動報告

宇宙の学校

11月1日会場で閉校式が行われました。

企業 CSR 支援事業

8/17 三菱重工業(株) 福島理科授業

8/22 三菱重工業(株) しんせんサマースクール

10/26 三菱重工業(株) 三原市立本郷小学校出前理科授業

広報活動

10/20.21 潤水都市さがみはらフェスタ

イベント・講演

8/10 二子玉川 RISE ライズの夏遊び 出展

8/24 KIOIKIDS 「宇宙の教室」

9/30 さんそ学習館ケイオス 講演「宇宙とガス」

10/20.21 武蔵野学院大学公開講座

10/21 武蔵野学院大学「宇宙の教室」

10/25 あきる野市室増戸小学校「宇宙の教室」

10/29 横浜市立星川小学校キッズクラブ「宇宙の教室」



◀ 10/29 星川小での「宇宙の教室」みんなで熱気球を揚げました。

▶ 10/26 本郷小での三菱重工の理科授業 スポイトロケットを飛ばして、ロケットが飛ぶ原理を学びました。



■四谷おとなの「宇宙の学校」

表紙の KU-MA10 周年記念事業 KU-MA おとなの「宇宙の学校」の参加者を大募集中です！！



2 回目には最近話題の「重力波」の研究をしている天文学者の藤本真克さん。3 回目は小惑星探査機「はやぶさ」元プロマネの川口淳一郎さんをお招きし、講演や理事とのトークセッションなどを予定しています。各講師のプロフィールを同封しましたのでご覧ください。

まだ、会員ではない方も、この機会にご入会いただくと、第 3 回目終了後に予定している会員限定の懇親会にも参加いただけます。従来のメールマガジンや会報、教材購入時の会員割引などの会員特典に加えて、来春の JAXA 相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟の見学会など、会員限定のイベントを企画しています。

ご案内のポストカードも作成してみました。ぜひ、この機会にご友人、お知り合いを KU-MA へお誘いください。

■国分寺市おとなの「宇宙の学校」

今年も、国分寺市主催 KU-MA 協力による国分寺市おとなの「宇宙の学校」も開催を予定しています。

今年のテーマは

「南極から探る宇宙」

詳細、ご応募につきましては、メールマガジン等でお知らせいたします。



■編集後記

2018 年もあと 1 か月となりました。活動を書き出すと、暑かった夏がずいぶん前の事のように。さて、上の写真にもある CSR 支援事業はどんな事をしているのか？ネットで「ニュースウェブ三原」を検索してみてください。10/26 放送回で稲葉副会長の授業風景やインタビューの動画が見られます。(田口)

■会員状況

正会員 218 (個人：200 学生：1 企業・団体：17)

賛助会員 50 (個人：35 企業・団体：15)

みなさまの会費や寄付金が運営費の一部となり、KU-MA 活動を展開させていただいております。日頃のご支援に心より感謝を申し上げますとともに、引き続き、活動および活動資金へのご協力をお願いいたします。

■会員募集中！！

◇正会員：KU-MA のミッションに賛同し、活動を推進する個人/法人・団体
年会費 個人：10,000 円(学生 5,000 円)、法人・団体：50,000 円
◇賛助会員：KU-MA のミッションに賛同し、寄付いただける個人と法人・団体
年会費 個人：1 口 1,000 円、法人・団体：1 口 50,000 円
※個人賛助会員への会員証、メールマガジンの送付は 5 口以上からです。

■会費や寄付金のお振込先

【会費や寄付金のお振込先は下記の口座へ】
横浜銀行 刈野辺支店 普通預金 1768456
特定非営利活動法人子ども・宇宙・未来の会
会長 並木 道義

「子どもの宇宙」を広げ 未来を豊かに

KU-MA は JAXA 宇宙教育センターと宇宙教育活動に関する協定書に基づき、連携・協力しながら宇宙教育活動を推進しています
「宇宙の学校®」は、JAXA 宇宙教育センターと当会の共同事業です

NPO法人 子ども・宇宙・未来の会 「宇宙の学校」事務局
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1 JAXA内
電話・FAX：042-750-2690
E-mail：KU-MAS@ku-ma.or.jp
ホームページ：http://www.ku-ma.or.jp